

# 情報公開用文書(附属市民総合医療センターで実施する研究)

西暦 2022 年 11 月 15 日第 2.1 版作成

<b>研究課題名</b>	R-CHOP 療法で治療された限局期びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫の臨床病理学的検討 YACHT ML1601-01 付随研究
<b>研究の対象</b>	2003 年 1 月から 2009 年 12 月までに当院にて限局期びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫症例と初めて診断され、初回化学療法として R-CHOP 療法を 6-8 サイクル受けた患者さんのうち、診断時の生検組織のホルマリン固定パラフィン包埋材料が収集可能な症例を対象とします。当院においては 34 例が対象となります。対象患者さんが本研究に参加することを拒否する権利、および拒否により不利益を被らないことを保証します。
<b>研究の目的</b>	限局期びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の R-CHOP 療法後の長期予後に影響を与える臨床病理学的特徴を検討します。
<b>研究の概要</b>	限局期びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫に対し、初回治療として R-CHOP 療法を行った症例の長期予後を解析し、予後に影響を与える臨床病理学的な特徴を検討します。
<b>研究の方法</b>	神奈川県立がんセンター血液・腫瘍内科 酒井リカ医師を研究代表者とする多施設共同後方視的研究であり、横浜市立大学附属病院、市民総合医療センターなど、計 4 施設が参加します。参加施設から未染色標本を収集し、県立がんセンター病理部において免疫染色を含む組織染色を行います。また、MYC, BCL2, BCL6 等のプローブを用いた fluorescence in situ hybridization は東海大学医学部基盤診療学系病理診断学（〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋 143、中村直哉教授）にて行います。得られた病理学的情報と臨床情報から長期予後との関連を検討します。
<b>研究期間</b>	倫理委員会で承認を受けた日 ~ 西暦 <b>2024 年 3 月 31 日</b>
<b>個人情報保護に関する配慮</b>	標本または臨床情報は、個人名など単体で個人を特定できる情報を削除し、研究用の番号(識別コード)で管理します。必要時に個人を照合できるよう管理する表(以下、対応表)を作成して、識別コードから個人を特定することが可能になりますが、その対応表は各機関で管理し、外部へ持ち出すことはありません。上記の通り研究に関わる機関の間で検体や情報の授受が発生しますが、研究対象の方が受診された病院以外の機関が個人を特定することはできません。
本研究のために、患者さんにあらたな負担や危険が生じることはありません。患者さんもしくはご家族の方等がこの研究へのご参加を希望されない場合は、以下の連絡先までご連絡いただけましたら、その方の診療録情報は本研究に利用しないようにいたします。本研究への参加をお断りになられたとしても、不利益になることは一切ございません。	

## 情報公開用文書(附属市民総合医療センターで実施する研究)

問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57

横浜市立大学附属市民総合医療センター 血液内科 藤澤 信

電話番号：045 - 261 - 5656 (代表) FAX：045 - 241 - 2812